

県政レポート(9)

山口県議会議員(文教警察委員長) 岡村 精二

感謝をこめて・・・

時下、皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、「凋落の時代」といわれ、さまざまな課題が私たちの前に立ちふさがり、日本は直面する困難を克服する勇気と、新たな未来を構築する挑戦と冒険が求められています。

政治家の責任として、山口県の未来に対する夢を語り、具体的な未来像を示し、実現のために実践していく覚悟を強く持たなければならぬと決意しています。

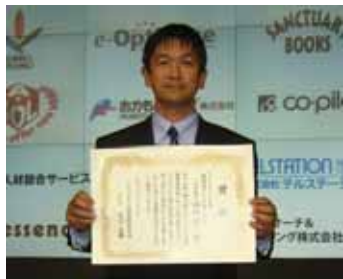
現在、文教警察委員会の委員長として教育問題や暮らしの安心・安全に係る課題に取り組んでいます。

特に山口県が将来にわたって確かな存在感を発揮できる地域であるために、持続可能な県政の地盤づくりに全力で取り組まなければなりません。

そこで「中山間地域振興条例」「ふるさと産業振興条例」の制定、また専門分野を生かし「青少年健全育成条例」「公共工事入札制度」の改正などに取り組んで参りました。

『生活者の起点に立った政策を提案し、専門的知識を持って、自ら行動し夢を形にしていく議員』を目指して、皆様のご期待に添えるように努力して参ります。

ご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



左: 議員が政策提案を競う第2回マニフェスト大賞にて優秀賞を受賞

右: 初詣には恵美須神社にお参りください。我が家でお世話しています。(厚南・妻崎漁港内)

【山口県(賢)人としての誇りと自信】(県議会の一般質問より抜粋)

「山口」とは「先駆けになる」「先陣を切る」という意味

平成 25 年、伊勢神宮では 20 年に一度の遷宮(せんぐう、社の立て替え)が行われます。その準備が平成 17 年から始まっています。遷宮が完了するまでに、20 数回の祭りが行われますが、最初に行われる祭りが「山口祭」です。

「山口」という言葉には「先駆けになる」「先陣を切る」という意味があるのだそうです。

明治維新のとき吉田松陰先生や高杉晋作が活躍したこと、9 人の内閣総理大臣を輩出していることも、我々、山口県民の持っている使命と、山口県の持つ役柄がそうさせているのではないのでしょうか。

山口県民の誇りと自信、そして勇気を子どもたちに持たせたいものです。

「山口県教育」とは「花のほほえみ 根のいのり」

薩摩藩には「郷中教育」という教えがあり、「嘘を言うな」「弱い者をいじめな」「質実剛健たれ」などと書かれ、これが薩摩藩の教育の柱です。

会津藩の藩校「日新館」には「什(じゅう)教育」という教えがあり、「年長者の言うことに背いてはなりません」「嘘を言うてはなりません」「卑怯な振る舞いをしてはなりません」などと書かれ、これが会津藩の教育の柱です。

山口県教育の柱ともいべき吉田松陰先生の松下村塾の塾則を調べてみると、5 カ条の塾則があり、第 1 条「両親の命、必ず背くべからず」、第 2 条「両親へ必ず出入を告ぐべし」と書かれています。

以下 3 条は、ほぼ「郷中教育」「什教育」の内容と同じです。

「両親の命、必ず背くべからず」「両親へ必ず出入を告ぐべし」という 2 つの規則は、他藩の規則にはなく、特に第 1 条に違反した場合には、厳しい罰則が書かれています。「親を大切にする」という当たり前と思えることを塾則の第 1 条にうたっていることが「松下村塾らしさ」であり大きな特徴です。

乃木希典大将の家訓は「幸を招く基は先祖に向かい、朝晩手を合わせよ」であり、松陰先生の影響を受けていたと思われます。「親を大切にする」ということは、植物に例えれば「根っこを大切にしろ」という教えです。

山口県教育とは「親や先祖を大切に教育」「郷土の偉人たちの生き方に学ぶ教育」だと思えます。

「花のほほえみ 根のいのり」という言葉こそ、山口県教育の根幹ではないのでしょうか。

(右: 松下村塾の塾則: 詳しくはHPブログに記載しています)

